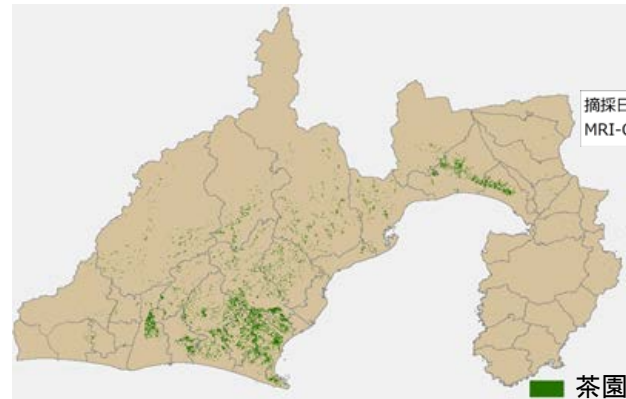


【成果概要】2-1 夏季の高温・少雨による茶栽培への影響調査

調査結果の概要

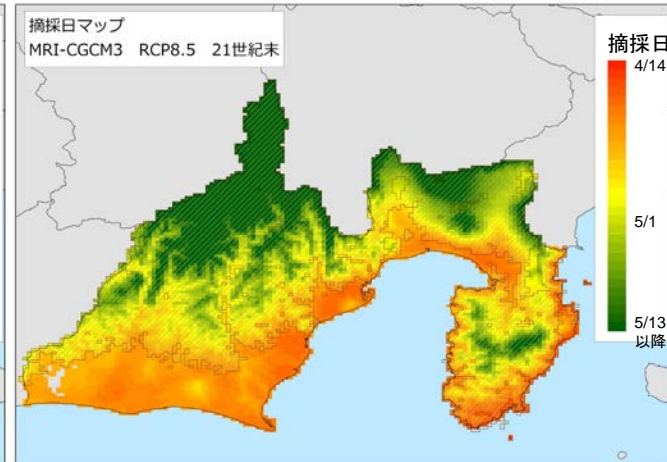
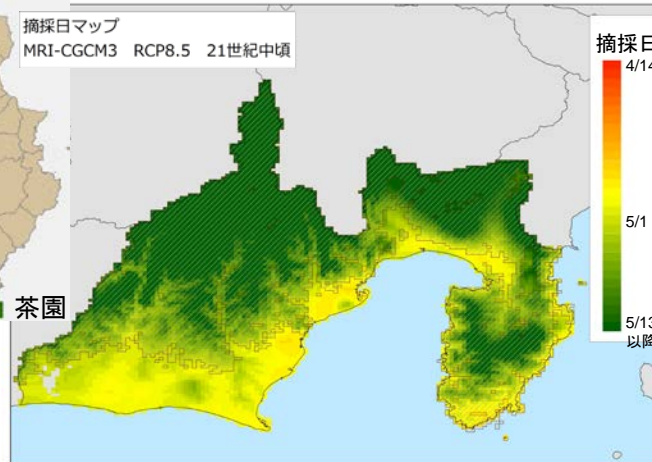
■ 平成30年度の成果

- 夏季の気象観測データと茶の作況調査結果を用いて統計手法で分析した結果、夏季の高温・少雨が翌年一番茶の生育・収量に及ぼす影響は明らかにならなかった。
- 統計解析をした結果、将来の気温上昇に伴い茶芽の生育が早まり、一番茶の萌芽や摘採が早まる可能性が示された。
- 春先の気温と作況調査(一番茶摘採日)の観測値を用いて一番茶摘採日の予測式を作成し、静岡県で将来予測を試行した結果、一番茶の摘採が早まることが示された。



静岡県内の茶園位置図

出典:「国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ」をパシフィックコンサルタンツ株式会社が加工して作成。
行政区域は「国土数値情報 行政区域データ」を使用。



一番茶摘採日の予測結果(MRI-CGCM3、RCP8.5) (21世紀中頃(左)、21世紀末(右))

出典:パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 明らかとなった課題

- 山地と平地で摘採時期が近づくことや摘採期間が短くなること等により、摘採に係る人員・機械・加工場の容量が不足するなど考えられるリスクについて、定量的・定性的な評価を試みる。

■ 平成31年度の調査計画

- 一番茶摘採日の予測(関東地域)、一番茶摘採日が早まることによるリスクの評価(静岡県、関東地域)
- 適応策の検討(静岡県、関東地域)